

愛媛県今治市大下島沖におけるカマイルカの観察記録

西尾喜量¹

¹ 日本野鳥の会愛媛

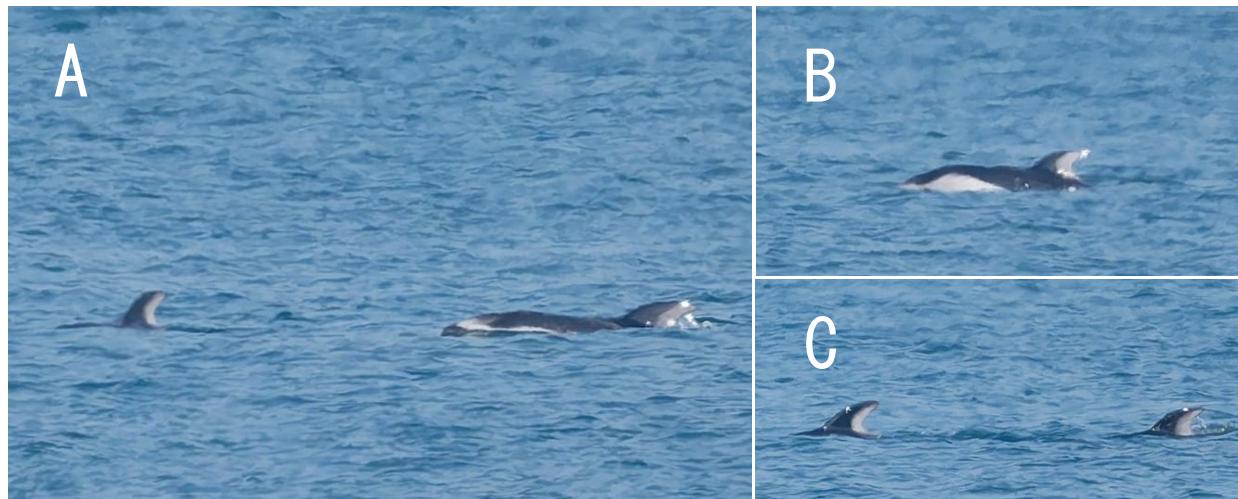


写真1 *Lagenorhynchus obliquidens* カマイルカ A: 頭部左側面, B: 胴体左側面, C: 背ビレ.

種の記録

Delphinidae マイルカ科

Lagenorhynchus obliquidens (Gill, 1865)

カマイルカ(写真1)

確認記録 観察年月日:2025年11月27日. 観察地点:愛媛県今治市大下島南東の海上(34.178171N, 132.938288E). 4 個体. 観察者:西尾喜量. 観察方法:船上から双眼鏡を用いて目視確認し, 望遠レンズ(焦点距離 600mm)装着の一眼カメラにて撮影.

種の特徴

約 5 分間の観察中に水面から側頭部, 胴体側面, 背ビレが目視で確認できた. 吻は黒く, 頭部前方から眼の上にかけては淡灰色で頭頂から背面は黒灰色であった(写真 1A, B). 眼の周りから胴体側面にかけては淡灰色で, 黒灰色の背面とははっきりと区切られていた(写真 1A, B). 背ビレは短く強く後方に湾曲しており, 前側は黒灰色で後ろ側は淡灰色であった(写真 1C). 以上の特徴が観察個体すべてに共通していたため, いずれも本種と同定した(Carwardine, 1996; Jefferson et al., 1999).

備考

本種は北太平洋の温帯域やその周辺に棲息し, 日本近海では日本海, オホーツク海南部, さらに九州から北海道にかけての太平洋で回遊する姿が確認されている(Carwardine, 1996; 松田ほか, 2011). 水深の深い大洋に広く分布するが, 海域によっては陸棚や非常に岸に近いところにも侵入する(Carwardine, 1996). 愛媛県では本種の公式な記録は見当たらず

(愛媛県産野生動植物目録について <https://www.pref.ehime.jp/page/17888.html>:2025年12月27日参照), 瀬戸内海沿岸における漂着記録としては, 1995年5月の兵庫県明石市, 2002年8月の大分県中津市がある(国立科学博物館 海棲哺乳類ストラーディングデータベース <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php?k=%E3%82%AB%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%AB&x=0&y=0> : 2025年12月21日参照). 本観察では水面上に現れた4頭しか確認できなかったが, 本種は10から100頭程度の群れを形成する事があるため(Carwardine, 1996), 水中にはそれ以上の個体がいた可能性が考えられる. 観察中, ブリーチングや採食行動などは確認できなかった.

引用文献

Carwardine M. 1996. クジラとイルカの図鑑, 完璧版. 日本ヴォーグ社. 東京. 255pp.

Jefferson AT, Leatherwood S, Webber AM. 1999. 海の哺乳類 FAO 種同定ガイド. NTT 出版, 東京. 336pp.

松田純佳・岩原由佳・小林沙羅・金子信人・鈴木 励・松石 隆. 2011. 津軽海峡におけるカマイルカの来遊個体数推定. 日本セトロジー研究, 21:15–18.

(2025年12月22日受付, 2025年12月28日公開)

連絡先: 西尾喜量 (e-mail: pmdgd959@gmail.com)

(Yoshitomo Nishio. 2025. An apparent record of *Lagenorhynchus obliquidens* (Delphinidae) from Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25038)